

単収アップを目指そう！

★平成31年度稲作重点事項★

①施肥設計の見直しをしよう

★初期生育の確保には、いろいろな要素がありますが、即効性の基肥窒素不足と見られる圃場がありますので、初期生育を確保するためにも、昨年の施肥量よりも**2割増施**しましょう。

★基肥まくもん、ハイセラN25等の緩効性コーティング肥料については、全層で使用すると、コーティングに傷がつき肥効の出方が一定でなくなるため、栄養診断による追肥の判断が必要になります。

※基肥窒素量を増やすことにより、倒伏の心配をされると思いますが、早期に目標茎数を確保し、早めの中干し(1週間程度)を行う事により回避できます。より重要なのは、早期に生育量を確保し穂肥を施用できるような稲姿に仕上げる事となります。

※基肥増施の参考例(10aあたり)

肥料名	H30		H31
エコエコ500	現物30kg (N成分4.5kg)	⇒	現物36～40kg (N成分5.4～6.0kg)
アグリフラッシュ 444	現物32kg (N成分4.5kg)		現物39～43kg (N成分5.5～6.0kg)

※上記の基肥量はあくまでも参考ですので、各営農センター稲作担当へ相談願います。